

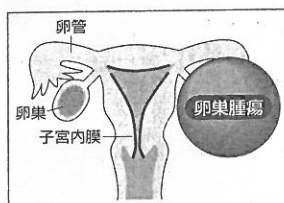
健康

「卵巢嚢胞」と診断された

質問

60代前半の女性です。健康診断で「卵巢嚢胞」と診断されました。2センチくらいの大きさとのことで、あらためて病院で検査したところ「悪性ではない」

と言われ、3カ月ごとに受診することになりました。今のところ大きさに変化はないそうです。卵巢嚢胞とは、どういったものでしょうか。



あまりに大きくなると腹部膨満や下腹部痛、頻

回 答 宮の左右に一つずつあり、通常は2〜3センチの大きさで、骨盤深部に存在しています。この卵巢に腫れが生じた状態を卵巢腫瘍(卵巢嚢腫)は卵巢腫瘍の一種で、子宮筋腫と並んで最も発生頻度が高い婦人科腫瘍の一つです。卵巢に腫瘍が発生する確率は、女性の生涯でみると5〜7%程度とされ、他のどの臓器よりも多種多様な腫瘍が発生します。その中で良性から悪性までさまざまな腫瘍が存在します。2センチの卵巢嚢腫もあれば、20センチまで大きくなって見つかるものもあります。あまりに大きくなると腹部膨満や下腹部痛、頻

定期検診で経過観察

尿などの腹部症状がでてきますが、小さいうちは無症状で経過します。このため、2センチの卵巢嚢胞があるあなたは、卵巢嚢腫による症状はないと考えられます。そして、卵巢嚢腫は健康診断の超音波検査で診断されたのではないのでしょうか。超音波検査ですが、その良性・悪性の正診率はおよそ90%です。卵巢嚢腫が嚢胞状(袋状)の場合の多くは良性腫瘍ですが、充実成分(かたまり部分)がある場合は悪性腫瘍や境界悪性腫瘍が疑われます。その場合は、精密検査として、腫瘍マーカー(血液検査)やMRI(磁気共鳴画像装置)検査が行われます。話は戻りますが、卵巢嚢腫の「嚢」は、袋という意味で、卵巢の中に袋ができて液体がたまつて嚢胞状の腫瘍になったものです。腫瘍というと、イコールがん(悪性腫瘍)をイメージされる方がいますが、医師は良性のものも「腫瘍」と呼ぶので、びくつくしないでください。

そして、卵巢嚢腫は腫瘍にたまった中身によって主に四つに分類されます。①漿液性嚢胞：中身はサラサラした液体で、最も多くみられるタイプです。②粘液性嚢胞：ネバネバした粘液が中身のもので、③内膜症性嚢胞：いわゆるチョコレート嚢

胞です。中身は血液で、月経痛の原因となったりします。④皮様嚢腫：中身はドロドロした脂肪や髪の毛、歯や骨などが入っている腫瘍で、若い方にみられます。また、その他に月経のある女性では排卵による影響で機能性嚢胞という卵巢の水膨れができることがあります。この場合は、自然に縮小していきます。しかし、閉経を迎えているあなたは、自然に小さくなることはまずありませんので、今後大きくならないか「定期検診が必要」とした主治医の先生の判断は正しいと考えます。

大きくなったり、見え方に変化(充実成分が出てくるなど)があったりする際は、本当に良性かどうかの診断をするために手術が必要となることもあります。いずれにせよ、検診を続け、主治医の先生とよく相談なさることをお勧めします。

質問募集

読者の健康に関する悩みに、県内の専門医がお答えします。病気、体調不良などの症状を詳しく書き、住所、氏名、年齢、性別、職業、電話番号を明記し、〒701-8572 徳島新聞社生活文化部「健康相談」係へ。紙上に住所、氏名、電話番号は掲載しません。



阿部 彰子医師
徳島大学病院 産科婦人科
(徳島市蔵本町2)